

4年生道徳学習指導案

- 1 主題名 相手のことを理解する < 内容項目： B-(11) 相互理解, 寛容 >
 2 資料名 貝がら < 出典 光文書院 >
 3 主題構成表

<p>◆内容項目 B-(11) 相互理解, 寛容 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。</p>	<p>◆価値の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人は間違った理解や解釈をしたり、他者の言動の真意を取り違えたりすることがある。この誤解によって、対立や争いが起こるのである。相互理解とは、初めから人の考えや価値観は多様であるということを弁え、相手のことを理解し、自他ともに大切な存在であることを認め、互いに尊重し合えることである。考えや価値観の多様さを相互に認め合い、理解していく中で、お互いに高め合える関係を築くことができるのである。 ・学校という小さい社会であっても、個人の考えや価値観は多様なものである。よりよい関係を築くには、それらの多様さを認識し、自分と異なる意見も寛容な心で受け入れ、相手への理解を深めることが大切である。 ・あらゆる場面で生じる互いの違いを認め、理解し合うことの大切さについて考えることができるようにしていく。 	<p>◆資料の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転校生の中山君は、女子に話し方を馬鹿にされたことをきっかけに、口を閉ざしてしまう。しかし「ぼく」だけは、笑った子と違い中山君を理解しようとする。互いのよさを認め合い、相互理解を大切にすることが、よりよい関係をつくる上で必要であることに気付くことができる教材である。 ・中山君との会話が続かなかった時から今に至るまでの、「ぼく」の気持ちの変化に言及し、中山君と仲良くなれると思った理由を考え、表面的なイメージで人を判断するのではなく、相手のことをよく知り、理解することの大切さに気付かせていく。 ・ものごとを一面的に判断するのではなく、視野を広げて考えることのよさにも気付かせていきたい。
<p>◆内容項目から見た児童の実態（意識）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や給食などのあらゆる場面で、困っている人がいれば、男女関係なく助け合える優しさがある。 ・心の成長と共に、男女間の隔たりが生じ始めており、休み時間などは、男子同士・女子同士で過ごしていることが多い。 ・勝手なイメージや印象だけで人柄を決めてしまい、トラブルや嫌がらせに発展してしまうこともある。 <p>◆要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分中心に考えてしまうばかりに、相手の考えや価値観までは広げて考えられていないことや、自分と異なる考えの持ち主や異質なものを排除し、自分の立場を安定させようと考えてしまうためであると考えられる。 		

◆本時のねらい
個の違いに気付き、それを認め、互いに理解し合おうとする寛容な心を育てる。

<p>◆ 展開の構想</p> <p>① 導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のことを知るには、どうすればいいか考える。 <p>②展開前段</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」は、初め中山君にどんな印象をもっていたか考える。 ・「ぼく」の中山君に対する見方が変わったわけを考える。 ・「ぼく」の中山君に対する思いが変わったわけを考える。 <p>④終末</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達とよりよい関係性を築くために大切なことをまとめる。 <p>◆人権教育との関わり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いに相手のことを理解し合うことや、ものごとを一面的に判断するのではなく、視野を広げて考えることのよさを知る。【認識力】 ・勝手な思い込みで友達として関わるができなかったが、相手の気持ちや背景を知ることによって、よりよい関係性がつくれると理解する。【自己啓発力】 ・学んだことを通して、今後の友達関係に生かそうとする。【行動力】 	<p>◆基本の発問(◎中心発問)</p> <p>○「ぼく」は、口を閉ざす中山君をどのように思っていたでしょう。</p> <p>○「ぼく」は、中山君の何が「やっと分かった」のでしょうか。</p> <p>◎「ぼく」が、「残念でたまらなかった」と思ったわけは何でしょう。</p> <p>○友達のことをもっとよく知るには、どうしたらいいのでしょうか。</p>
---	---

4 学習の指導過程

	児童		教師
	ねらい	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助および留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> • 友達のことを知るには、どうすればいいか考える。 	1 今までほとんど話したことがない友達がいたとき、あなたならどうしますか。 (事前にとったアンケートの結果を提示)	<ul style="list-style-type: none"> • アンケート結果を提示し、自分を振り返られるようにする。 • 「友達と仲良くするためには、どうしたらいいか考えよう。」と投げかけて教材に入る。
展開前段	<ul style="list-style-type: none"> • 「ぼく」は、初め中山君にどんな印象をもっていたか考える。 • 「ぼく」が中山君に抱く気持ちの変化を考える。 • 「ぼく」が、中山君と仲良くなれると思ったわけを考える。 	2 資料「貝がら」を読んで、話し合う。 ○「ぼく」は、口を閉ざす中山君をどのように思っていたのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> • 会話が続かなくて、悲しい。 • 腹が立っていた。 • 話しかけているのに、酷いな。 ○「ぼく」は、中山君の何が「やっと分かった」のでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> • 何で話したくないか。 • 学校で嫌なことがあったこと。 • 方言を笑われて悲しかったこと。 ◎「ぼく」が、「残念でたまらなかった」と思ったわけは何でしょうか。 (ワークシートに自分の考えを書く。) <ul style="list-style-type: none"> • お見舞いに来てくれたのに、話せなかったから。 • 話してみたかったから。 • 今度こそ仲良くなれると思ったのに、話せなかったから。 	<ul style="list-style-type: none"> • 口を聞いてくれない中山君への腹立たしい思いや、「ぼく」の気持ちを考えることを通して、自分の考えや感じ方に気付くことができるようにする。 • 中山君を理解しようとすることで、中山君についてのことが分かってきたことに気付けるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>認識力</p> <p>※互いに相手のことを理解し合うことや、ものごとを一面的に判断するのではなく、視野を広げて考えることの大切さを知る。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 中山君に対する自己中心的な考え方(偏見のようなもの)をしていた頃から、中山君のことを思うようになった今に至るまでの経緯を考えさせることで、「ぼく」の気持ちの変化に気付けるようにする。
展開後段	<ul style="list-style-type: none"> • 「貝がら」で学んだことを広げて自分たちの生活に立ち返る。 	3 自分の生活に立ち返る。 ○友達のことをもっとよく知るには、どうしたらいいでしょうか。 (ワークシートに自分の考えを書く。) <ul style="list-style-type: none"> • 相手のことを分かろうとする。 • 相手のよい所を見つける。 • 話し方などが自分と違ってても、笑ったり馬鹿にしたりしない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学級が同じでも、今までほとんど関わっていなかった子を想起し、よりよい学級にしていくには、今後どうしていったらよいか考えられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自己啓発力</p> <p>※勝手な思い込みで友達として関わることができなかったが、相手の気持ちや背景を知ることによって、よりよい関係性がつくれると理解する。</p> </div>
終末	<ul style="list-style-type: none"> • もし、自分と異なる考えをもつ仲間がいたらどうするか考える。 	4 アンケート結果を見返し、学習をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> • 互いに理解し、自分との違いに寛容になることが、これからの社会で生き抜き、よりよく生きることに繋がることに気付けるようにする。